

林業福島

No. 570

題字 福島県知事 佐藤雄平



2

2012

かんしゅう■福島県農林水産部
表紙の写真■暖・薪ストーブ



木と日本人

三春町福聚寺住職
芥川賞作家
東日本大震災復興構想会議委員

玄 侑 宗 久

日本人は、木に対して特別の感情をもっている。

古代「木」の字は「け」と訓み、「毛」や「氣」にも通じるものとされた。

つまり、「氣」も「毛」も「木」も生命力の発露とみなされ、自然に生えてくる大切なものと考えられたのである。体から毛が生えるように地球からは木が生え、その間には気による交流もあると考えたのだろう。そしてその生命力が衰えることを、「け」枯れ、つまり「穢れ」として嫌ったのである。

大地の生命力を表す木には、神が宿っていると信じられた。人が生まれるのも産土の神の助けあつてのこと。木が生えてくるにも同様の加護があるとみなしたのである。

だからこそ、日本人は百済から伝来した金銅製の仏像を、日本独自の木彫仏に造りかえた。それによって仏教は、日本人の心情に合うものになったと言えるだろう。日本の神が宿った木で造られた仏像は、すでに日本化した仏教の象徴だったのである。

これだけの経済発展を果たした国が、今なお六七割という高い森林率を保っていることは驚異的である。第二次世界大戦で日本はおよそ岩手県一つ分ほどの森林を失ったが、なんとそれに匹敵する植林を戦後に行なっている。

世界一の森林率を誇るフィンランドなどと違い、日本人にとつての森は、近づきがたい場所ではなく、もつと生活に密着している。山菜や生薬やキノコの宝庫であるばかりでなく、薪や炭や建材も供給してくれる。

現在の経済原理のなかで、日本人の森林と生活との距離は、広がりつつあった。今回の大震災、そして放射能の飛散によって、その距離はさらに離れてしまうのだろうか。

むしろこの機会に、我々は木について、森について、もつと考え、もつと近づきべきではないか。木は何も言わず、じつと我々のすることを見つめている。

《も く じ》

とびら	
木と日本人	
三春町福聚寺住職	
芥川賞作家	
東日本大震災復興構想会議委員	
玄 侑 宗 久	1
山火事を防止しよう	
～忘れない 山への感謝と 火の始末～	2
林業労働力確保支援センターだより	3～4
児童・生徒の林業就業促進支援事業について	5

木の施設	6
林道を訪ねて3,000kmシリーズ (第4回)	
「小爪線との出会い」	7
普及指導員通信	8
木材市況・ふくしま東西南北	9
木連だより	10
福島水源林整備事務所だより	11
一語一絵「みどりの文」について	
社団法人福島県造園建設業協会	12
はなしのひろば	13

山火事を防止しよう ～忘れない 山への感謝と 火の始末～

福島県森林保全課

●山火事の発生状況

冬から春にかけては空気が乾燥し、季節風も強いいため火災が発生しやすい気象条件となっています。また、春先は暖かくなって山に入る人が増えるほか、農作業等で火入れを行うなど山に近い場所で火を使う機会が増えます。

例年、二月から五月にかけて山火事の発生が集中します。平成二二年は県内で三五件（前年約一〇〇件）の山火事が発生しましたが、約八割がこの時期に集中しています。

●山火事の原因

平成二二年の山火事の原因は、「たき火」によるものが最も多く、次いで「放火の疑い」「たばこ」の順になっており、人為的な原因によるものが七割以上を占めています。（図一）

●山火事による損失

山火事による損失は、森林を所有する方の財産が失われるだけでなく、私達の生活環境を維持するうえで大切な、水源かん養機能など森林のもつ様々な機能も失うことになり

ます。

燃えてしまった森林をもとの姿に戻すためには、多額の費用と多くの人手、そして長い年月を要します。このため、普段からの予防対策により山火事を出さないことが重要となります。

●山火事の消火方法

山火事の消火活動は、市街地の火災に比べ、道路、水利、地形などの条件から非常に困難であるため、自力での消火は大変危険です。

山火事が発生した場合や、山火事を発見したときは、すぐに消防署等へ通報するようお願いいたします。

なお、原発事故に伴う警戒区域・計画的避難区域において大規模な林野火災等が発生した場合、管轄消防本部からの支援要請により、福島市消防本部（代表消防本部）で支援調整・広域応援隊の編成を行い、広域応援隊が派遣されることになっていきます。

●福島県での山火事予防運動

福島県では市町村、森林管理署、

消防本部等の関係機関と連携して、「山火事予防運動」を実施しています。広報誌やテレビ・ラジオ、各農林事務所での山火事予防の働きかけなどを通じて県民の皆さんに山火事予防についてお知らせしています。

●おわりに

大きな被害を引き起こす山火事を予防するため、森林のなかでは火を使わないようお願いいたします。また、やむを得ず森林のそばで火を使う場合には、つぎのことに注意して下さい。

- 1 枯れ草などの燃えやすいものがある場所では、たき火をしない。
- 2 たき火をする時には水を用意し

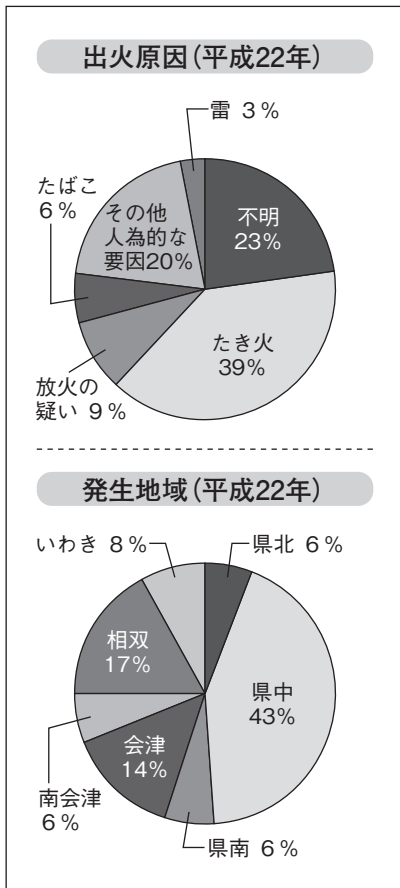
ておき、火から離れる際には完全に消火する。

- 3 乾燥時や強風時には、たき火や火入れをしない。
- 4 火入れを行う場合は、必ず許可を受ける。
- 5 タバコは指定された場所で喫煙し、吸いがらは必ず消火する。吸いがらは投げ捨てない。
- 6 火遊びは絶対にしない。させない。

山火事の大部分は、私達一人ひとりの注意で防ぐことができます。

福島県の緑豊かな森林を山火事から守るため、皆様のご協力をお願いします。

（図一）



林業労働力確保支援センターだより

未来に向けた

夢のある林業の創造へ

―雇用の安定と定着をめざして―



高性能林業機械の実習 / 高性能林業機械作業システム研修

林業労働力確保支援センターでは、県内林業の持続的かつ健全な発展のため、林業事業者の経営基盤の強化、林業の担い手の確保・育成等をめざし各種事業を実施しています。

平成二三年度に実施している研修や事業等について、その主な内容を紹介します。

◎高性能林業機械貸付事業 (高性能林業機械のリース)

高性能林業機械の貸付は平成二二年度から実施し、初年度に四九台、昨年度に二三台を導入し、本年度は七台の導入を計画しております。

機械導入は林業労働者の減少に対応し、現在の作業工程の見直しに伴う機械化の推進、さらに重筋労働の軽減および、若年労働者等の確保を図り、森林が有する多面的機能の維持増進に寄与するものです。

本事業により、県内の森林整備の推進と素材生産の増大に大きな期待が寄せられています。

◎低コスト作業路開設研修

これから、森林作業道づくりに取り組もうとしている者を対象に森林作業道づくりに必要な基本的な施工技術の習得目的とする研修を、一般社団法人 フォレストサーベイとの共催で実施しました。

森林作業道の役割、土工の基本技術、丸太組工法等の内容で行い、研修生は三〇名で、全員に修了証書を交付しました。

◎高性能林業機械作業システム研修

林業事業者で基幹的な林業労働者になり得る者を対象に、十一月にいわき市で実施し五六名が参加しました。

研修は学科と実地(機械の操作等)を行い、学科で学んだ知識を現場で専門の講師の指導の下、五班に分けて実践しました。

現場では、機械(プロセッサ、グリップ付バックホウ二台、フォワード)四台を使い、実際の工程(玉切り・積込・運搬・はい積み)を行い、

研修生は機械操作時の注意点や基本技術等を習得しました。

◎地域林業雇用改善促進事業 (厚生労働省委託事業)

①相談指導

求職者に対する情報の提供や相談、事業主に対する労働関係法規、各種制度、具体的事例などの相談指導を実施しています。

◎林業雇用改善アドバイザー 二名 配置

②雇用情報の収集・提供

林業に係る求人・求職に関する情報、雇用改善に資する情報などを収集し、求職者及び林業関係事業主に對してその情報を提供しています。

◎情報誌の発行二回(十月、二月)

③委託募集

林業事業者の知名度の不足を補い、募集人数を多くすることで、求職者へのアピール度を高めるため、他の事業主及び支援センターと共同して行う改善措置に参加する事業主の委託により、支援センターが厚生労働省に届出・受理を得て求人募集を行っております。

◎委託募集の実施事業体 十一事業体

④研修

事業主、労務担当者等を対象として雇用管理の改善に関連した講義による研修を実施しました。

◎雇用管理セミナー 十二月開催 四一名参加

◎林業雇用改善コンサルタント相談 個別具体的な指導・助言を必要とする林業事業者に対し、人事・労務管理に関する専門家(社会保険労務士)による専門的な相談を実施しました。

◎認定事業体三社に対して八、九月に実施

⑥林業雇用改善推進会議

賃業労働力の確保の促進に関する基本計画に沿った各種事業のフォローアップ、地域の実情を踏まえた林業の雇用管理改善等を効果的に推進するため二月に開催しました。

◎異業種参入促進事業

林業への参入を希望する異業種団体(建設業者等)の作業員に対して、森林林業の知識や技能を習得させ、



刈払機の講習 / 異業種参入促進事業

林業への参入機会を促進する目的の研修を八月～十一月にかけて実施しました。

森林・林業に知識の講義や、刈払機・チェーンソー特別教育を実施しました。

◎緑の雇用現場技能者育成対策事業
旧「緑の雇用」事業での研修は、

一年目は基本的な技能、二年目はかかり木処理研修の高度な技能、三年目は効率的な間伐作業に関する技能とそれぞれの研修目的に沿ったものでしたが、本年度より新たな事業では、三年間を通じて体系的に技能の習得が図られるよう全国統一のカリキュラムを整備し、これに基づき研修を進めることになりました。

①集合研修

新規就業者等（一年生～三年生）に対し、林業の基本的な知識・技術技能等を習得させるための座学及び実習等による研修を六月～十一月にかけて、七五日間実施し、一三六名に「修了証」を交付しました。

②実地研修

集合研修の内容を踏まえ、各事業体で実際の作業現場において、知識・技能等の習熟を図る実地（OJT）研修（一年目・最大八ヶ月、二年目・最大六ヶ月、三年目・最大六ヶ月）の研修を実施しました。

◎林業就業支援講習

一月～二月にかけて二〇日間実施

し、県外から参加された八名の方を含め十四名の方が「刈払機作業従事者安全教育」・「伐木の業務に係る特別教育」・「小型車両系建設機械運転業務特別教育」・「林内作業車を使用する集材作業に従事する者に対する安全教育」・「救急法基礎講習」を受講し、「修了証」を交付しました。

◎放射性物質と林業に関する研修会
八月十八日に郡山市のホテルバー

デンにおいて当協会主催、福島県の後援による研修会を開催しました。講師として、県放射線健康リスクアドバイザーの長崎大学高村教授を迎え、林業事業者等を対象に放射性物質等への正しい知識を深め、森林への影響及び今後の林内作業実施上の留意点について丁寧な説明を頂きました。

なお詳細につきましては、林業福島第五六五号に掲載しております。

◎森林除染業務研修会

県内の林業就業者を対象として、森林における除染作業を適切かつ安全に行うため、森林除染に関する基礎知識と技能習得を目的とした研修会を、当協会主催、福島県の後援により、いわき市と南相馬市の二会場にて開催しました。

室内研修では、（独）日本原子力研究開発機構より講師を迎え、放射線や除染に関する基礎知識についての講義を行った後、県林業振興課お

よび県林業研究センターによる、林内における具体的な除染の方法や作業を行う際の装備等についての説明がありました。

林内における作業実習では、サーベイメーター（線量計）の扱い方や測定方法、除染作業の手順・方法、仮置き場の設置方法等についての説明があったのち、各班に分かれて実際に除染作業を行いました。

寒空の下での研修となりましたが、皆熱心に参加していただきました。



森林除染業務研修会／いわき会場

①南相馬会場

十二月二日に、福島県テクノアカデミー浜および、南相馬市有林にて開催し、相双地方の林業事業体を中心に約五〇名が参加しました。

②いわき会場

十二月六日に、いわき市労働福祉

会館および、いわき市三和町の県行造林地にて開催し、いわき地方や県南地方の林業事業体を中心に約七〇名が参加しました。

◎高性能林業機械実践研修会

平成二一年から二三年の三ヶ年間で計七九台の高性能林業機械の貸付を実施し、その結果、県内での林業機械の導入数は飛躍的に伸びています。

これに伴い、効率的な運行・安全な操作が求められ、事業体の経営改善・労働災害防止を目指した研修会を開催しています。八月に福島市松川町の公社造林地を中心に、のべ一四五名の参加を得て、機械の保守・点検、安全操作、さらに最新型機械四台による伐倒、造林、搬出、集積と現場での機械操作を含めた研修会を実施しました。

林業労働力確保支援センターの主な事業を紹介しましたが、これからも、皆様のご理解とご協力をいただきながら、福島県の森林・林業の発展に努めてまいりますので、よろしくお願いたします。

末尾になりますが、三月の東日本大震災、原発事故からの一刻も早い復興に向け、皆様とともに取り組んでまいりますので、ご支援・ご協力をいただきますようかさねてお願い申し上げます。

児童・生徒の 林業就業促進支援事業について

田人林業研究会 緑川 平 隆

私たち田人林業研究会は、平成二
三年度児童・生徒の林業就業促進対
策事業に参加する事になりました。

今回の事業の対象として選定した
のは、いわき市立田人第二小学校
(全校生十名)、汐見が丘小学校(五
年生六五名)、勿来第三小学校(五
年生十名)で、各校と平成二三年夏
ごろから事業内容の打ち合わせを始
めました。

今回は児童を対象としたため、内
容については

1. 森林のなりたちについて
 2. 間伐作業の必要性
 3. 木材の生産方法について
- を当研究会 豊田新一会長が、写真
や図表を用いてわかりやすく説明し
た後、私たちが用意した木材や加工
機械を使って、実際に道具箱や本立
てを製作しました。当研究会員はそ
のサポートに当たる、という形で、
児童の林業や木材加工に対する関心
を育てることを目標としました。こ
こでは、各校ごとの事業の流れを紹
介したいと思います。

(1) 平成二四年一月十四日 田人第二小学校

この学校を初めとして、事業をス
タートさせました。この学校の特徴
としては、いわき市の山間部に
位置するため、学校林を用いた森林
体験授業を取り入れていること、立
地条件上、普段の生活から森林に接
する機会が多く、もともと林業に対
する意識が高いことが挙げられます。
内容としては説明の後、道具箱
を製作しました。また、学校規模の
都合により全校生を対象としたもの
になりました。

(2) 平成二四年一月二八日 汐見が丘小学校

今回の事業の中で、もともと規模
の大きな小学校です。この学校の特
徴としては、海岸部に位置し、
普段あまり森林、林業に接する機会
がありませんが、教員から森林に関
する授業を受けていることが挙げら
れます。

説明の後、本立てを製作しま
した。五年生が対象ということで、
森林への知識、加工機械の体験もあ

り、大変スムーズに作業が進行しま
した。(写真1～3 汐見が丘小学
校の様子)

(3) 平成二四年二月十日 勿来第三小学校

中山間部に位置する小規模校の、
五年生十名を対象に行いました。立
地条件上、森林に接する機会があ
り、先生からも授業を受けたばかり
であるという事でした。

説明の後、本立てを製作しま
した。これも五年生が対象で、私た
ち講師の数に対し生徒の数も適切で
あったため、進行はスムーズでし
た。

以上三校を対象とした事業を行っ
た感想としては、まず、森林や林業
に接する機会が少なくなっている割
に、深く関心を持っているというこ
とを感じました。豊田会長の説明に
対しても、大事な場面でリアクショ
ンがあり、学校で行っている森林学
習の効果を感じました。

また木工体験に於いては、普段な
かなか使うことの無い、金槌や糸の
こぎりやドリルに対しても非常に関
心が高く、習得も早いようでした。
特に加工に対しては私たち大人より
も発想が柔軟で、「道具箱に蓋を付
けたいがどうすればよいか」「加工
の際に出た端材を使って、本立てに
仕切りを付けたい。」など、我々サ
ポートする立場の者を驚かせるよう
な場面もありました。

今回児童たちから頂いたメッセー
ジの中で印象に残った部分を紹介し
ます。

「今回の授業を受けて、森林と私た
ち人間は、互いに支えあつて成り
立っている事を理解しました。」

このように理解してもらえること
が今回の事業の成果であり、また、
これをきっかけに将来、子供たちの
中から、林業や木材加工に関わる仕
事に就きたいという意欲が芽生える
ことがあれば良いと感じています。

〈汐見が丘小学校の様子〉



(写真1) 金づち使いがととても上手！



(写真2) みんなで助け合って、“本立て”を作成中



(写真3) 出来上がった“本立て”のお披露目です。



いわきニュータウンの木造応急仮設住宅団地外観

昨年
の未曾有の大震災や原発事故により避難を余儀なくされた方々のため、いわき市中央台にある「いわきニュータウン」には、プレハブ造、木造を含め、様々なタイプの応急仮



の施設

No.4 いわきニュータウンの 応急仮設住宅団地

福島県林業振興課



応急仮設住宅の内装

設住宅が数多く建設された。いわきニュータウンは、市内平地区と小名浜地区を結ぶ「都市軸」、そして内陸の山地側と海側の観光地を結ぶ「レクリエーション軸」との交点にあたる丘陵地帯に位置している。市民の憩いの場である県立いわき公園を取り囲むように形成するこの大きな住宅街において、それら街並みにも見劣りしないほど美しい景観を木造の応急仮設住宅は作り出している。

そのうちの一つ、社団法人福島県建設業協会によって建設された板倉構法による応急仮設住宅は、緩やか



木造で整備された高齢者サポート拠点

なカーブを描く道路沿いに建ち並び、木造ならではの落ち着いた佇まいで周囲の景観とも調和している。およそ今までのイメージとは掛け離れたこの応急仮設住宅団地は、建築、木材の業界紙においても数多く取り上げられている。噂を聞いて先日見学に訪れたある大学の先生が、「基礎がないだけで、これは新築の住宅と何ら変わらないね。」と感想を述べたほどである。

また、この仮設住宅団地内には、住宅とともに高齢者サポート拠点（デイサービス）も木造で建設されており、全てが木造で整備された団

【データ】いわき市高久第十応急仮設住宅団地
 所在地：いわき市平字下山口字大沢1-7
 構造：木造平屋建て（ロフト有）
 建築面積：6108.5㎡（計76棟 162戸）
 延べ面積：5485.3㎡
 木材使用量：約3,400㎡（約21㎡/戸）
 使用樹種：スギ（風呂の一部にヒノキを使用）
 事業主体（発注者）：福島県

地である。これだけの木材に囲まれた空間で生活した経験がある方は少ないかもしれないが、建設に携わった事業者の「被災された方々に少しでも安らぎを与えたい」という強い思いが込められていることが感じられる。

これだけのスケールの木の街並みだが、三年間で撤去されるのは、少し勿体ない感じを受けるが、木の良さが多くの方々に伝わり、今後建設される復興住宅において再生利用するなど、木の街並みが広がっていくことが期待される。



林道を訪ねて3,000kmシリーズ（第4回）

小爪線との出会い

技術士 中村多伸

路線名	小爪	幅員	4.0m	延長	1,865m
市町村名	東白川郡棚倉町				
開設年度	昭和45年～47年	事業名	林道開設事業		

1. 小爪線との出会い

- ① 私事ではあるが、初めて公共事業の林道の現場を担当するように言われて、感動して舞い上がった記憶がある。当時は、県単林道が華やかな時代であり、市町村から設計を依頼され、現地測量や設計が中心で、公共担当は一人前にならないと上司から任されることはなかった時代である。
- ② この集落は、林業に関心が深く、所有する森林面積が大きく、森林施業計画を立てながら路線選定するなど、自分にとって、地域住民との係わりや交流の大切さを学んだ貴重な出会いであった。

2. 現地の状況

- ① 自分で選定し測量し設計した林道を、40年間経過した後に車で走行できるとは、夢にも思わなかった。
- ② 現地は、諸般の事情により途中で中止されていたが、スギの美林は壮大な林に成長し、その役割を十分に果たしていた。

3. 技術的な課題とその現状等

- ① 公道を起点として、10数軒の集落迄は、農地を利用したために、路盤工の設計に苦難したが、今では舗装され快適な路面が確保されている。
- ② 地質は棚倉破碎帯に含まれ、安定的な法面や路盤の確保はできなかったが、治山の低堰堤が多く見られることや、山腹工が認められることから、土砂の移動が多く発生したことが伺える。

また、森林地帯であることから、車廻しを多く設計した記憶があるが、少な過ぎという感触が強い。

路線によって、判断することであるが、積極的に計画して作っておくことが肝要である。



消石灰を施工した軟弱路盤は、舗装され堅固であるが凹凸が認められる。

・ひとり言・

勤務地や職種は自分で選択できないが、色々な職種を経験することは大切なことである。現在は交流という大義名分で、色々な職種に配属されている職員が多いのに驚くが、他所の水を飲み、異種の空気を吸うことは、将来の自分の肥やしになると思う。その経験を林業の現場に活かしてほしいと願う。

野生きのこ鑑定会の開催

■会津農林事務所
林業普及指導員 佐藤 修

例年、林業普及指導員を中心に地区別研修として野生きのこの鑑定会を実施してきましたが、今年は東京電力福島第一原子力発電所の水素爆発に伴う放射性物質の飛散もあり、きのこの安全・安心の確保が注目されていることから、当管内において、平成23年10月11日(火) きのこの直売所等で販売に係わる方の参加を募り柳津町で開催しました。

午前中に野生きのこの採取を柳津町森林公園内で行いました。採取を前に普及指導員からきのこ採取上の注意点として、下記内容(①～④)等を説明しました。

- ① 蜂等動物に注意すること。
- ② きのこの発生場所・どんな木または地上に出ていたか記録すること。
- ③ きのは途中から折れないよう根元から丁寧に採取すること。
- ④ 採取したきのこの形が崩れないよう袋等に入れること。

午後は当町役場の会議室で、きのこアドバイザーである青野茂氏による鑑定ときこの見分け方をパワーポイントで説明していただきました。

鑑定では参加者がきのこ図鑑を見ながら名前を調べ、その後に青野氏による鑑定を食用・不食(黒色)、毒(赤)と色で区分してきのこ採取票に記入していただきました。発生環境が乾燥で悪い中、食用きのこはヒラタケほか12種類、毒きのこはツキヨタケほか9種類が採取されました。



きのこ採取前の注意事項説明



採取したきのこの鑑定

続いて、普及指導員により原発事故による野生きのこのモニタリング対象品目(腐生菌類の品目22種類、菌根菌類の品目23)の説明があり、正式な品目名と地方での俗称を交えながら説明しました。また、野生きのこ出荷規制等に関する注意事項及びきのこ類モニタリング調査の行動計画について説明しました。

引き続き会津保健所所品衛生チーム職員による毒きのこによる食中毒の発生状況や食品衛生法に基づく表示規制等について説明がなされました。

参加者からは、販売はしているが、自分で採取するのは初めてであり、採取の苦労が実感できました。また、同じきのこでも発生する場所により色や形が違うことが理解でき大変参考になったとの意見が出されました。



採取したきのこの鑑定



スライドによる毒きのこの説明



素材の価格〈工場着価格〉(11月15日現在)

(単位：m³当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8~9)	0	(0~0)	0	9 (9~9)	0	9 (8~9)	0
		10~13				11 (11~12)	0	9 (7~11)	0	12 (12~12)	0	11 (7~12)	0
	中	14~18	3.00	並	スギ	13 (13~14)	0	11 (10~11)	0	11 (10~13)	△1	12 (10~14)	0
						ヒノキ	19 (15~24)	0	(0~0)	0	14 (10~17)	△3	17 (10~24)
		6.00	並	スギ	19 (16~24)	0	(0~0)	0	14 (13~16)	△1	17 (13~24)	0	
					ヒノキ	24 (24~24)	0	(0~0)	0	20 (14~26)	0	21 (14~26)	△1
	20~28	3.65	並	スギ	14 (13~14)	1	12 (12~13)	0	12 (10~14)	△1	13 (10~14)	0	
		4.00	並	アカマツ	11 (9~13)	0	13 (13~13)	0	10 (10~10)	0	11 (9~13)	0	
		1.80	並		7 (5~10)	△1	(9~9)	0	8 (8~9)	△1	8 (5~10)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	23 (23~23)	0	(0~0)	0	23 (23~23)	△1	23 (23~23)	△1
米マツ					26 (24~28)	0	26 (26~26)	0	24 (23~24)	0	25 (23~28)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	22 (22~22)	△1	22 (22~22)	△1	
				ベニマツ	27 (27~27)	0	(0~0)	0	22 (22~22)	△1	25 (22~27)	0	
南洋材		70~90	8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
					アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
パルプ用材	-	-	並	マツ	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
				広葉樹	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	

十月の原木市場への入荷状況は、前月比二〇割増(前年比一割増)の二七、九四七立法材となっている。販売量については、前月比一九割増(前年比二割減)の二七、八一四立法材となっている。夏に落ち込んだ取引量が、秋以降前年並みに回復しつつあり、平成二三年一十月の取扱量は前年比で入荷量、出荷量ともに五割減となっている。十一月の価格については、弱含みである。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(9~10)	0	9 (8~9)	0
	13~14			9 (8~9)	0	8 (7~9)	0	
	16以上			10 (10~11)	0	11 (10~11)	0	

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均的価格を示す。
3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。

当日は天候にも恵まれ、県内外の観光客など多くの参加者があり、体験コーナーでは午前中のうちに準備していた部材がなくなってしまうほどの盛況ぶりでした。今年度は林業祭に係る企画・運営をこれまでの町主体

から民間の自発的活動へ移行し、「みなみあいづ森林ネットワーク」が事務局となって実施した初めての取組みでした。

今年度の盛況ぶりから来年度も林業祭を開催する予定としており、事務局はさらなる元気な南会津の情報発信に向けて準備に取り組んでいます。

南会津町林業祭が平成二三年十月九日(日)に御蔵入交流館駐車場ほかで開催されました。林業祭は平成二二年度から毎年開催されていますが、今年度は風評被害に負けない南会津の元気を情報発信するために、「新そばまつり」、「鴨山城まつり」など町内の各種団体が主催するイベントと連携して実施し、住宅の建築・改築相談コーナー、薪ストーブの展示、木工品の販売、薪割り体験、木工教室、木工クラフトなど様々なブースにより、町内の森林・林業・木材産業についてPRしました。



南会津町林業祭が開催されました。

南会津農林事務所森林林業部 林業課主任主査 白田 康之



大盛況の木工クラフトブース

団体のページ

表-1 (単位：戸、前年比%)

会社名	平成22年度	前年比
1 住友林業	8,947	102.1
2 タマホーム	8,756	95.2
3 ミサワホーム	7,969	98.2
4 一建設	7,708	109.3
5 一条工務店	7,580	104.5
6 アーネストワン	6,067	128.3
7 三井ホーム	4,150	100.4
8 積水ハウス	3,587	106.0
9 飯田産業	3,518	107.6
10 ポラスグループ	2,348	100.0
11 東栄住宅	2,285	147.4
12 レオハウス	1,898	105.0
13 タクトホーム	1,892	128.9
14 アイディホーム	1,781	149.2
15 積水化学工業	1,780	102.3
16 住友不動産	1,777	102.5
17 アサカワホーム	1,702	120.6
18 アイダ設計	1,617	95.2
19 アクチュラホーム	1,559	114.4
20 エス・バイ・エル	1,503	95.1
21 ファースト住建	1,407	99.7
22 スウェーデンハウス	1,291	98.5
23 東日本ハウス	1,208	85.7
24 桧家住宅	1,195	157.2
25 三栄建築設計	1,023	115.2

(1) 平成二三年度木造戸建て住宅の建築
 全国の住宅着工戸数は、平成二二年
 度(平成二二年四月〜平成二三年三
 月)は八一九、〇二〇戸と前年度比で
 五・六割増加し、うち木造住宅着工戸
 数でも、平成二三年度は四六四、一四〇
 戸と前年度比六・三割の増加となった。
 さらに平成二三年度の木造住宅市場
 を総括すると戸建て分譲住宅分野の活
 況があり、年度着工戸数は一一三、四

二七戸と前年度比一九割の大幅な増加
 を示した。そこで大手住宅メーカーの
 建築棟数は？『日刊木材新聞』に掲載
 された木造戸建て住宅の建築棟数ラン
 キングを表-1に示した。
 また使用部材の特徴について同紙で
 は、主要構造材で杉集成
 管柱の採用が増えたこ
 と。これまでは、欧州産
 構造用集成材と杉・松な
 どのムク材の間でのシエ

木連だより

平成22年、23年の
 全国住宅着工動向
 について



表-2 (単位：戸、前年比%)

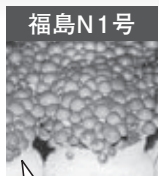
		1月	2月	3月	4月	5月	6月
H22年	総戸数	64,951	56,527	65,008	66,568	59,911	68,688
	木造戸数	34,629	32,115	33,947	34,425	34,959	40,748
H23年	総戸数	66,709	62,252	63,419	66,757	63,726	72,687
	木造戸数	35,740	33,532	35,425	35,282	34,126	40,249
H23/22年比 (%)	総戸数	2.7	10.1	▲2.4	0.3	6.4	5.8
	木造戸数	3.2	4.4	4.4	2.5	▲2.4	▲1.2
		7月	8月	9月	10月	11月	計
H22年	総戸数	68,809	71,921	71,998	71,390	72,838	738,609
	木造戸数	40,045	42,073	41,141	40,991	41,454	416,527
H23年	総戸数	83,398	81,986	64,206	67,273	72,635	765,048
	木造戸数	48,160	46,901	36,681	38,075	40,128	424,299
H23/22年比 (%)	総戸数	21.2	14.0	▲10.8	▲5.8	▲0.3	3.6
	木造戸数	20.3	11.5	▲10.8	▲7.1	▲3.2	1.9

(2) 平成二三年住宅着工戸数の推移
 平成二三年の一月から十一月までの
 全国住宅着工戸数を月別にまとめたの
 が表-2である。
 東日本大震災による影響もそれほど
 なく推移してきたが、九月以降、住宅
 エコポイントの復活等様子見の影響か
 らやや減少しているが、今後は復興需
 要などによる増加を期待したい。

ア争いが続いたが、今回の調査では杉
 集成管柱が急増した。国産材を使いた
 いという要望と、安定供給、安定品質
 を求めた結果が杉集成管柱になり、タ
 マホーム、一建設、アーネストワン、
 飯田産業、東栄住宅等でも採用してい
 る。

きのこで地域を元気に (財)福島県きのこ振興センター

●菌床栽培用ナメコ(登録品種)

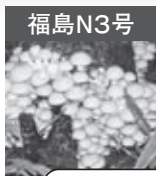


安定多収量



大型・滑り少

●原木栽培用ナメコ(登録品種)



コナラ原木で安定・多収量
 食物繊維、ペクチン様物質豊富



○その他各種種菌

- 菌床
 - ・シイタケ
 - ・ハタケシメジ
 - ・ムラサキシメジ等

○マイタケホダ木 ○栽培資材

〒963-0112 郡山市安積町成田字西島坂7-2 Tel 024-947-2188 Fax 024-947-6926
 E-mail:f-kinoko@mtj.biglobe.ne.jp URL:http://www.f-kinoko.org

福島水源林整備事務所だより

木造仮設住宅を生んだ 岩手県住田町を訪ねて

福島県水源林造林推進協議会の平成二三年度先進地視察が昨年十月十七日に行われました。遠藤雄幸川内村村長以下二五名の会員が訪れた先は東日本大震災から四日後の三月十五日には一〇〇棟の木造仮設住宅を町内に建設することを決めた岩手県住田町です。

「この迅速な対応がなぜ可能だったのか？」この疑問が今年度の視察先在住田町にした大きな要因でした。加えて造林地所有者や造林者である会員の心を捉えたのが、「地元の材を使った木造の一戸建て」という仮設住宅の特徴でありました。

いち早く仮設住宅が建設された直接的な理由は①現行法令の様々な制約に臆さず決断した多田欣一町長のリーダーシップと、それを支援した議会を始めとする町民の理解があった。②町産木材の販路拡大戦略の一つとして木造仮設住宅の開発を進めていた。

しかしながら研修を進めるうちに気づいたのは、住田町には「森林・林業日本一のまちづくり」のスローガンに相応し



(写真1) 住田住宅産業(株)の視察風景



(写真2) 木造仮設住宅



(写真3) 林業循環型システム



(写真4) 木材加工団地全景

た、森林づくりから住宅建設までの一貫した木材供給システムが背景にあり、懐の深い対応力が整備されていたからでした。

住田町が林業振興に本格的に取り組み契機となったのは、一九七七年に策定した「住田町林業振興計画」でした。その後一九九三年には「第二次住田町林業振興計画」、二〇〇四年には「森林・林業日本一のまちづくり」プロジェクトに引き継がれていきました。これらの計画に沿って、一九八二年に木造住宅を産地直

送で建設する三セクの住田住宅産業(株)が設立されました。その後、一九八七年に大規模製材工場、一九九三年にはプレカット工場、一九九八年には集成材工場、二〇〇〇年には一市二町の森林組合合併等を通じて地域林業システムが確立されて行きました。

今回の木造仮設住宅の開発を任されたのは、設立三五年を迎えた住田住宅産業(株)でした(写真1、2)。多田町長は人道復興支援のためイラクに派遣された自衛隊テントを見て木造仮設住宅に着目し、二〇〇八年の中国四川大地震の際にいち早く被災地に木材を運んで仮設住宅を建てたカナダの行為が以後の中国に於ける復興住宅へのカナダ材採用に繋がった事実を見て、一昨年の秋に木造仮設住宅の設計を指示したそうです。折しも木造仮設住宅の設計図が完了する直前に、東日本大震災が発生したのです。

住田町が目指す「産業循環を図る地域林業の総合的なシステム形成」はとも内容が豊富でした。育林から住宅建設までの一貫した木材流通システムだけでなく、

く、森林認証制度を通じた豊かな森林づくりや木質バイオマスによる森林エネルギーの循環、保育園児から小中高生徒、一般町民といった各年代に応じてカリキュラムが組まれている森林環境学習についても講義を受けました(写真3、4)。

このように町を挙げて「森林・林業日本一のまちづくり」に総合的に取り組んでいる背景があるからこそ、奇跡のような迅速な木造仮設住宅の建設が果たせたのだと感じました。

今回の視察を通し、人のために地域のために自分は何が出来るのかと問い、その答えを常日頃から探していれば、大震災であろうが何であろうが、自分のやるべきことは直ぐに分かるのだと感じ、今を大切にしなければならぬのだと改めて考えさせられました。

最後に、住田町の「森林の立場からの復興支援」が報道され、音楽家の坂本龍一さんが代表を務めるMore TreeやFSCジャパンなどから支援の手がさしのべられていることをお伝えして、この度の視察研修の報告を終わります。

団体のページ

「一語一絵」「みどりの文」について

社団法人福島県造園建設業協会

「一語一絵」―庭にはひとつの物語があり庭には一枚の絵がある―ということなのです。

そのたぐさんの庭への思いを手紙や絵手紙に託し応募していただいているのが「みどりの文」であります。平成二三年度で第六回目を数えましたが、六年の間に応募された手紙は、全国から二、五〇〇通にもおよびます。

特に、今回第六回目には、庭への想いのほか、「緑美しいふるさとへの想い」もテーマに加え募集をいたしました。三・一一東日本大震災のため避難を余儀なくされ、ふるさとに帰りたくとも帰れない方々の想いを少しでも形に残したい、という主

催者側の強い思いがありました。

募集については、一ヶ月遅れの五月二八日より開始いたしましたので、募集期間も三ヶ月間となりましたが、海外も含め全国から三二〇通の手紙が届けられました。

【手紙部門】

家族の歴史を刻む記念樹へのそれぞれの思い。津波で流されてしまった丹精込めて作った庭。帰宅困難地域へ残してきてしまった庭の四季折々の草花。海外から眺める変わり果てたふる里。そして身近なところでは、草花・樹木の香りや手触りから広がるみずみずしい感性の世界を点字で刻む県立盲学校の生徒さんたちの手紙等々、庭は、人々の四季

折々の営みが展開される場所であり、そこに広がる物語は歴史となるのです。

丹精込めた庭が一瞬のうちに波にのまれ、また、美しく手入れをしてあげることが出来ないこの現実の痛さを、手紙は行間にも綴っていました。しかし、避難先で咲いた一本の薔薇に「希望」と名付けたという手紙には、一筋の光を見る思いがいたしました。

【絵手紙部門】

今回は、元気に咲き誇る黄色い「ひまわり」に思いを託す絵手紙が多かったような気がします。「黄色い戦士」と名付けた手紙もあり、絵手紙に添えられた「蘇れ、ぼくたちの庭」のメッセージには強い祈りがありました。又毎回応募してください「大熊町自閉症児親の会スマイル」は、避難先もバラバラとなり、描く道具を持ち出すことも出来なかつたという状況の中で、お盆に一

同が会し広島に旅行をした際に描いた原爆ドームに一言「ふるさとへかえりたい」と添えてありました…。

(絵手紙部門 入選)

【表彰式】

去る十月二八日、福島市において入選された方々の栄誉を讃え表彰式を挙行したと同時に福島民報新聞紙上に「庭に刻む」というテーマとともに入選された方々の手紙を掲載いたしました。

それは、瓦礫がまた命を吹きこまれ、「瓦の扉」として新たな役目を授かったというものであります。朝日を浴びたその扉は、大地から力強く生まれでたようであります。

「みどりの文」はたぐさんの人の手によって回を重ねてまいりました。その優しく強い思いは必ず明日へとつながることでしょう。



【絵手紙部門】最優秀賞(福島市・佐々木三郎さん)



【絵手紙部門】優秀賞(福島市・野地富美子さん)



【絵手紙部門】郵便事業(株)福島支店長賞(福島市・寺島良子さん)



【絵手紙部門】入選(会津若松市・栃本春美さん)



穏やかな一年を願って

おとぎ話に出てくる鬼は大抵悪役である。同じ鬼でも鬼畜は最低だが、最近では鬼畜も驚く事件が続く、日本人の優しさや世界に誇る安全・安心の治安は昔話になりそうである。

日本には古くから伝わる鬼にまつわる昔話や行事が多く、暮らしに関する代表的なものに節分がある。鬼にとつて節分は最大の厄日であり、その節分が二月三日にやってくる。

節分の翌日が立春で、暦の上では春と呼ばれるが、本物の春はゆつくりとやって来る。子供の頃、『福はー内、鬼はー外』と威勢の良い子供の声が街中に響き渡ったが、最近の家は構造が超気密になったことが原因なのか、『福はー内、鬼はー外』の声は殆ど聞かれなくなり、冬の伝統の風物詩がまた一つ消えそうに感じられ寂しい限りである。

ところで、元旦は風・雪もなく静かに新たな年を迎えた。大晦日の紅白歌合戦の影響で早起きは辛かったが、新年を祝う行事などを早めに済ませて水かけ祭の撮影に出掛けた。会場で顔見知りの方達に新年の挨拶をしたところ、話題は無事平穏を願う一語に尽きた。

厄落しを願って会場を訪れた人にカメラマンの数は例年より少なく寂しい祭礼だった。家に戻ると多くの知人や友人から心の籠った賀状が届いていた。賀状にはおめでとうの文字を省き、今年も宜しくというものが多かった。また、カラー写真など豪華なものが多かったが、これは昨年の津波や原発事故の悲しさを一刻も早く忘れたいとの思いや明るさを取り戻したいとの願いを感じた。賀状のなかに『後始末の技も確立されていない原発は核兵器とともに、この世界・地球には必要ないと思う』との一節に胸が熱くなった。

私も本誌五六八号で原発は地域経済を潤すが、一旦事故が起きると生命の危険は勿論、故郷を追われる事にもなりかねないと知人に話したと書いたが、日本の原発は経済性優先で進められ、事故発生時の対処マニュアルを先送りしていると感じていたからだった。

新聞等でご承知の様に、国と東電は科学者等の警告を二研究者の研究と片付け、国民に安全安心のPRに努めた結果、原発事故で本県の暮らしをぶち壊してしまった。佐藤徹風

表紙の写真



「暖・薪ストーブ」

第8回ふくしま森林・林業写真コンクールで特別賞を受賞した鈴木芳子さん(郡山市)の作品。

編集

- 福島県内四森林管理署
- 福島県内四森林協同会
- 福島県森林組合連合会
- 福島県木材協同組合連合会
- 福島県緑化推進委員会
- 福島県農林種苗農業協同組合
- 福島県農林業公社
- 森林総合研究所福島水源林整備事務所
- 福島県林業協会
- 福島市中町五番一八号県林業会館内

発行

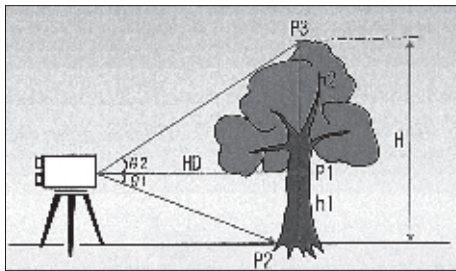
渡辺卓

発行人

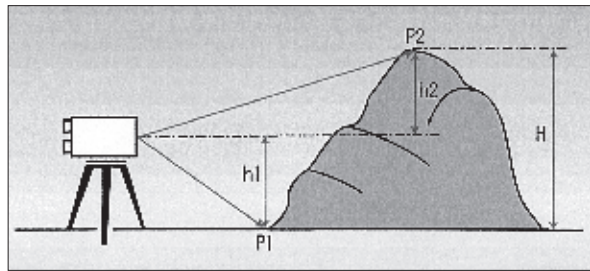
日光社印刷株式会社 (定価 六三円)

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合

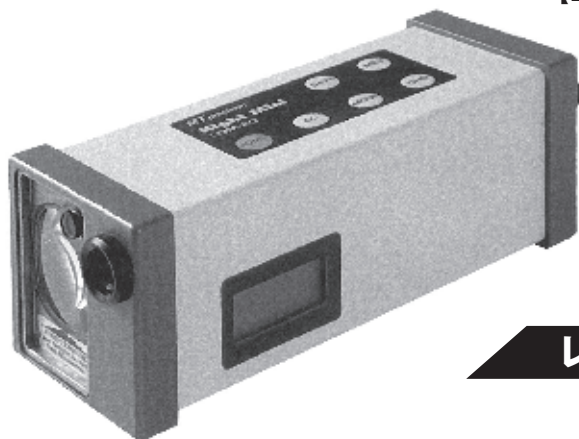


2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	± 5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定	高さ・水平距離・斜距離
寸法	W64・H64・D180
重量	650g
付属品	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



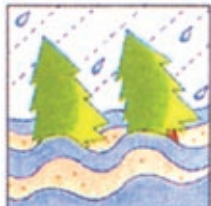
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



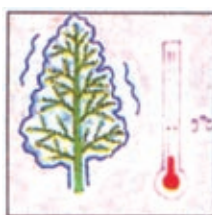
4 雷害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆ 県内各森林組合
- ◆ 福島県森林組合連合会

又は 県庁森林保全課
TEL 024-521-7441

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒969-1149 福島県本宮市本宮万世11-7
TEL 0243-34-5440 FAX 0243-34-5442

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生動物から大切な植栽木を守る

ツリーセーブ
ヤシマレント

盗みされ防止

ハチノックL (網隠し)
ハチノックS (携帯用)

**大切な日本の松を守る
ヤシマの林業薬剤**

ヤシマスマイバイン乳剤
ヤシマスマイバインMC
グリーンガードエイト
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートSC
マツグリーン液剤2

くん蒸用生分解性シート

ちゆらシート (茶・白)
NCSシート (透明)
与作シート (茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリアバック使用)



住化グリーン株式会社

本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目5番4号 TEL.03-3523-8070 FAX.03-3523-8071
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室 TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

排気量 **18.3cm³**
世界最小・最軽量、2.2kgの手のひらサイズ



G2000T 

20cm(8インチ)・SP ¥66,675(税込)
20cm(8インチ)・CV ¥72,765(税込)

排気量 **40.1cm³**
さまざまな用途に対応、本格プロ仕様シリーズ



G4211EZ 

40cm(16インチ)・SP ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・SP ¥137,865(税込)
40cm(16インチ)・H ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・H ¥137,865(税込)

使いやすさを追求したハンドルと思いのアクセルワークが可能なたりガーレバー。



BC2711DW1-EZ

- ・防振ハンドルブラケット
- ・トリガーレバータイプ

チップソー ¥79,380(税込)
笹刈刃 ¥78,330(税込)

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1